

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 南富良野町の結果について

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査対象学年

- 町内小学校第6学年の児童、町内中学校第3学年の生徒 原則として全児童生徒

### 3. 調査内容

#### ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に係る内容等

#### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査  (例)「国語・算数(数学)の勉強は好きですか」「学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査  (例)「前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか」「授業研究や事例研究など実践的な研究を行っていますか」「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」など

## II 調査の結果

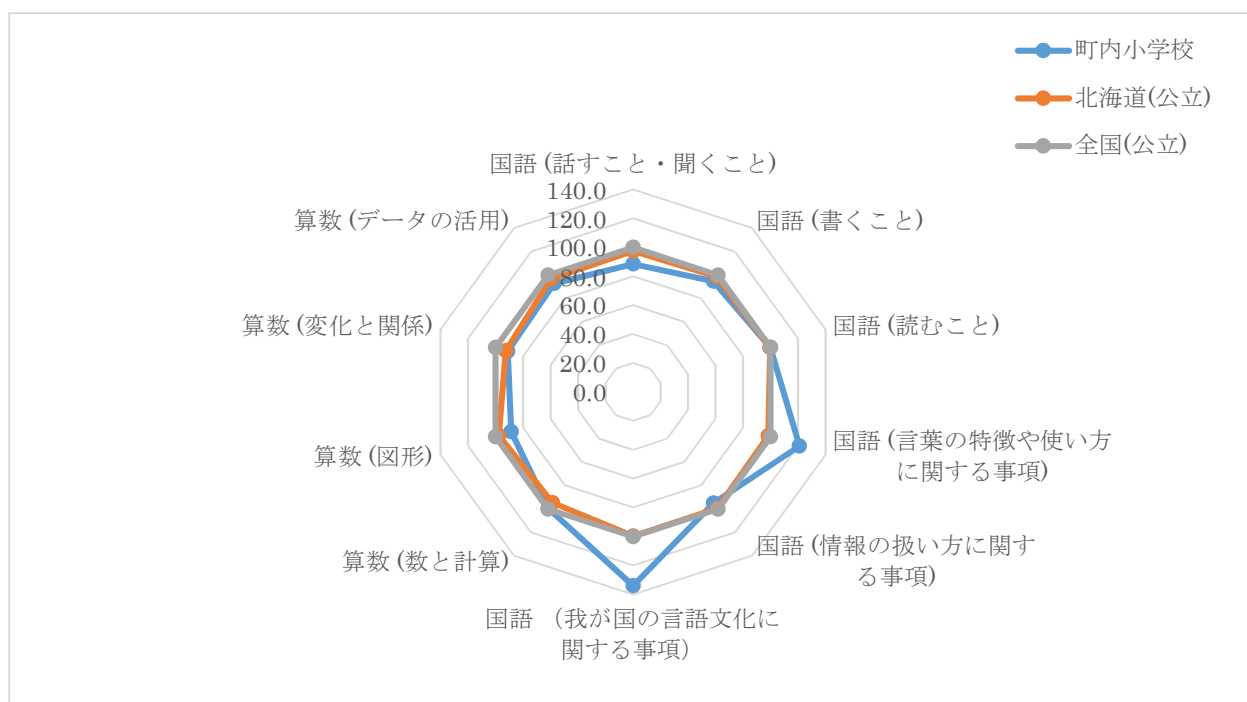
本調査で結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

### 1. 児童生徒の学力の状況について

#### (1) 小学校（平均正答率）

教科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語	66.8	67.7	71.0	↑ 3.3
算数	60.6	63.4	59.6	↓ 3.8

	国語	国語	国語	国語	国語	国語	算数	算数	算数	算数
	(話すこと・聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(言葉の特徴や使い方に関する事項)	(情報の扱い方に関する事項)	(我が国の言語文化に関する事項)	(数と計算)	(図形)	(変化と関係)	(データの活用)
町内小学校	52.9	64.7	70.6	77.9	82.4	100.0	65.7	58.8	47.1	57.4
北海道(公立)	58.3	67.4	70.4	63.3	86.3	74.3	62.5	64.7	47.8	59.7
全国(公立)	59.8	68.4	70.7	64.4	86.9	74.6	66.0	66.3	51.7	61.8



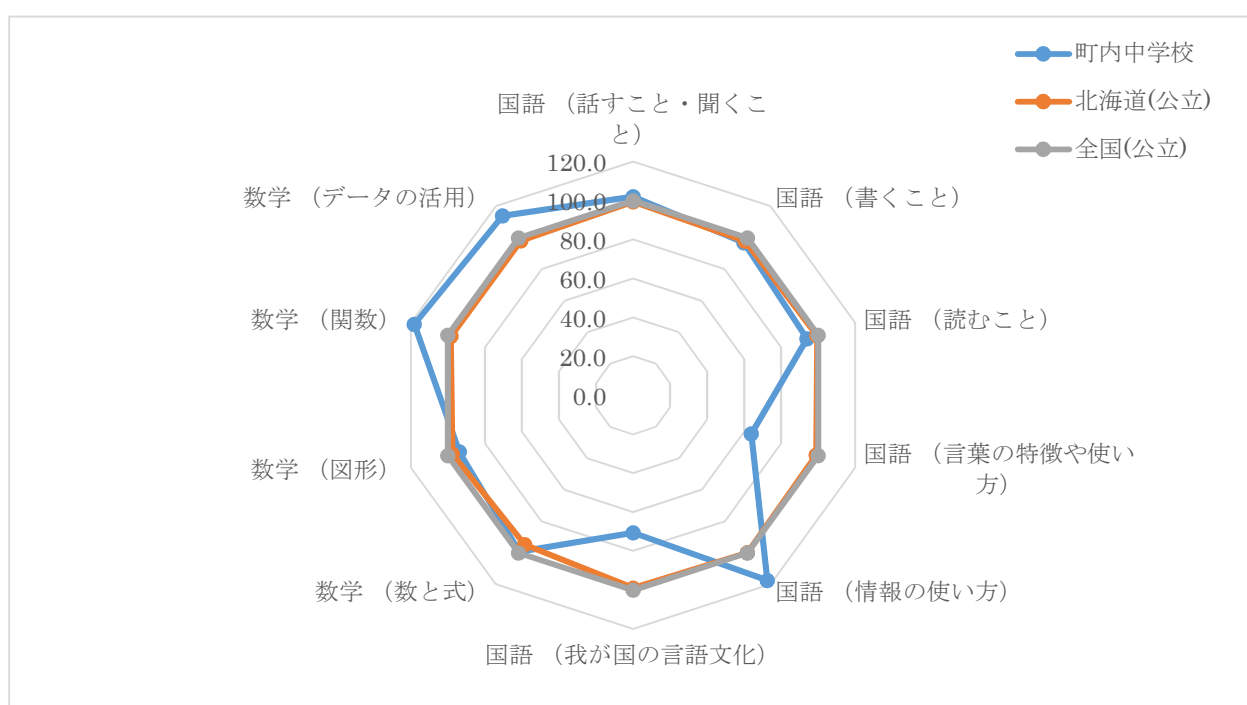
小学校は、国語が全国平均正答率を上回っているが、算数は下回っている。

なお、国語は「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」の正答率が高いが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」は全国平均正答率を若干下回っている。算数は全ての項目で全国平均正答率を若干下回っている。

(2) 中学校 (平均正答率)

教科	全道平均	全国平均	南富良野町	全国との比較
国語	57.6	58.1	52.9	↓5.2
数学	51.0	52.5	56.7	↑4.2

	国語	国語	国語	国語	国語	国語	数学	数学	数学	数学
	(話すこと・聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(言葉の特徴や使い方)	(情報の使い方)	(我が国の言語文化)	(数と式)	(図形)	(関数)	(データの活用)
町内中学校	60.0	63.3	45.0	37.8	70.0	53.3	50.7	37.8	71.7	63.3
北海道(公立)	58.5	64.0	47.6	58.6	59.5	74.8	48.4	39.3	59.7	54.5
全国(公立)	58.8	65.3	47.9	59.2	59.6	75.6	51.1	40.3	60.7	55.5



中学校は、数学が全国平均正答率を上回っているが、国語は下回っている。  
 国語では「情報の使い方」の正答率が高いが、「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」が全国平均正答率を大幅に下回っており、「書くこと」「読むこと」は若干下回っている、数学では「関数」「データ活用」の正答率が高いが、「数と式」「図形」が全国平均正答率を若干下回っている。

## 2. 児童生徒質問の傾向について

※共通質問のうち、「生活習慣の基本に関わるもの」「家庭と学校の連携が必要なもの」を抜粋しています。

※網掛けは、全国平均より上回っている項目を表しています。

※数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。

### (1) 家庭での生活・学習について

質 問 事 項	全 国	小学校	全 国	中学校
朝食を毎日食べている	93.7	94.1	91.2	93.3
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	82.9	88.3	80.7	86.6
毎日、同じくらいの時刻に起きている	91.6	94.1	92.5	86.7

◇学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日どのくらい時間勉強をしますか（学習塾でしている時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

	3時間 以上	2時間～ 3時間	1時間～ 2時間	1時間 未満	全くしない
全 国	11.0	12.5	31.1	40.0	5.3
小学校	0.0	5.9	35.3	58.8	0.0
全 国	9.2	22.5	32.6	28.8	6.6
中学校	0.0	6.7	20.0	53.4	20.0

家庭での生活・学習について、小学校・中学校ともに基本的な生活や家庭での学習習慣が身に付いているが、特に小学校では規則正しい生活が送れている。

小学校、中学校共に半数以上が1時間未満の学習となっており、学習時間の目標に到達しない実態がある。

### (2) 学校での生活・学習について

質 問 事 項	全 国	小学校	全 国	中学校
国語の勉強は好き	62.0	64.7	64.3	73.3
国語の授業の内容はよく分かる	86.3	100.0	82.7	86.7
算数・数学の勉強は好き	61.0	52.9	57.2	86.7
算数・数学の授業の内容はよく分かる	82.1	58.8	75.7	93.3

小学校では、「国語」の「勉強は好き」「授業の内容はよく分かる」が全国平均よりも上回っているが、「算数」は下回っており、「算数」の正答率の低い原因となっていると思われる。中学校では全ての教科において全国平均よりも上回っている。

(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	全国	小学校	全国	中学校
自分には、よいところがあると思う	84.1	76.5	83.3	100.0
新聞を読んでいる	11.6	11.8	7.3	13.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.7	100.0	95.7	100.0
人の役に立つ人になりたい	95.9	94.1	95.2	93.4
将来の夢や目標を持っている	82.4	64.7	66.3	73.3

小学校の「新聞を読んでいる」は全国平均よりも上回っているが、あまり読まれていない。※「ほぼ毎日」「週に1～3回程度」の集計であり、「月に1～3回程度」を含めると小学校41.2%、中学校20.1%となっている。

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は全員が肯定的な意見となっている。

小学校・中学校ともに「自分には、よいところがあると思う」が全国平均よりも上回っており、自分に自信が持てているものと思われる。

「将来の夢や目標を持っている」については、小学校よりも中学校が高くなっており、成長に連れて目標を持てていることが見受けられる。

### Ⅲ 課題と今後の取組

#### 1. 小学校

##### ○課題

- ・国語「話すこと・聞くこと」について、全国平均正答率を下回っており、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することが苦手である。
- ・算数については、全国平均正答率を全て下回っており、その中でも「図形」の正答率が低く、考えるポイントを整理して問題を解決することが苦手である。
- ・「授業の内容がよく分かる」が国語は100.0%と高い数値になっているが、算数が58.8%と数値が低く、全国平均正答率より低い原因となっている。
- ・家庭学習が計画的に進められておらず、1日当たりの学習時間が1時間より少ない児童が半数以上となっている。

##### ○今後の取組

- ・朝学習や放課後学習などで学習ドリルの書き問題に取り組むことにより、書く力を身に付ける。
- ・全校児童で「数と計算」領域のプリントに取り組み、数の概念形成や計算力を育む。
- ・タブレット学習ソフトについては、授業だけでなく家庭学習においても積極的に活用し、児童の学習意欲の向上と振り返り学習を行う。
- ・学校改善プランを作成し、修正を重ねて学校全体で授業改善に取り組む。

- ・学習のねらいに即して必要な語彙や言葉を取得させる取り組みを行う。
- ・南富良野町学習スタンダードに則り、小規模複式学級に合うスタイルを構築し、実践を行う。
- ・家庭学習について保護者・児童に呼びかけを行い授業だけでなく予習・復習を行うようPTA等の会議で提起のうえ、実践するよう周知する。
- ・児童どうしの学び合い及び教師との学び合いを大切にし、一方的に伝えるのではなく伝え合うことを大切にした「対話的な学び」の実践を図る。

## 2. 中学校

### ○課題

- ・国語は全国平均正答率を下回っており、「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」については、全国平均正答率よりも3割程度下回っている。
- ・数学は全国平均正答率を上回っているが、「数と式」及び「図形」は全国平均正答率よりも若干下回っている。
- ・家庭学習が計画的に進められておらず、1日当たりの学習時間が1時間より少ない生徒が半数以上となっている。

### ○今後の取組

- ・国語では、自分の考えがよく伝わる文章を書けるよう、伝えたいことを明確にし、効果を考えながら書けるよう意図的に文章を書く活動を多くする。
- ・数学では、知識が不十分な内容について定着を図るほか、図や文章を正しく読み取る力の育成を図る。
- ・1人1台端末について、クラウド型学習支援サービスや学習支援ソフトを積極的に活用する。
- ・引き続き外部講師による学力向上講習を実施する。
- ・土曜授業・学力チャレンジデーを設置し、基礎的・基本的な内容の更なる定着を図る。
- ・学年の段階に応じて家庭学習の時間が増えるよう内容の充実化を図り、計画性を持たせるようにする。

## IV 家庭へのお願い

1. お子さんが望ましい生活習慣や学習習慣を身につけるために、お子さん中心の生活リズムをつくりましょう・また、積極的にお子さんと会話するなど、現状の把握に努めましょう。
2. テレビやビデオ、DVDの視聴やテレビゲーム、インターネット等に費やす時間については、各家庭でお子さんと話し合い、少しずつ減らしていきましょう。
3. 家庭学習は、学年×10分+10分に取り組みましょう。

学校での授業内容を定着させるには、学年×10分+10分の家庭学習が必要です。勉強する時間を決めて取り組むことのできる環境を親子で一緒に作りましょう。

(中学1年生は80分、中学2年生は90分、中学3年生は100分になります。)